

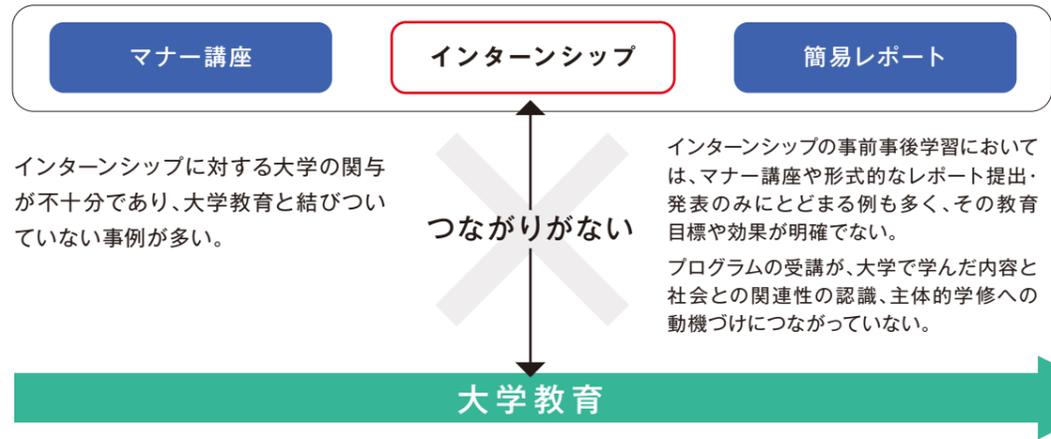
◆はじめに

— 産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成 —

今日の多様化した学生を主体的な学修へ繋げるためには、「なぜこの勉強をする必要があるのか?」「今の学修が将来、社会でどのように役立つのか?」という大学教育と社会との関連を明示し、大学教育で獲得する知識の有用性を実感させることが求められます。当事業では、産学協働教育を始点として、学生の主体的な学修を促すことで、地域社会の発展を担う中核的・中堅職業人を育成・輩出することを目指しています。

従来型

産学協働教育の課題(例:インターンシップの場合)



インターンシップに対する大学の関与が不十分であり、大学教育と結びついていない事例が多い。

つながりがない

インターンシップの事前事後学習においては、マナー講座や形式的なレポート提出・発表のみにとどまる例も多く、その教育目標や効果が明確でない。プログラムの受講が、大学で学んだ内容と社会との関連性の認識、主体的学修への動機づけにつがっていない。

大学教育

新モデル

<本事業に参画している大学の取組>



インターンシップ3 (国内インターンシップ)



企業課題探求型 長期・有償型インターンシップ



大学提携型 インターンシップ



キャリア形成 アドバンスト・プログラム

実習前～実習後までの一貫した学修支援プログラムで、従来型の課題を解消し、実習終了後の大学での主体的な学修につなげていきます。

◆本取組の概要・ねらい

地域ニーズや学生気質も異なる4大学(京都産業大学・新潟大学・成城大学・福岡工業大学)の強みを融合させ、単独では実現できない教育プログラムの多様化・進化を図っています。本取組では、インターンシップをはじめとする産学協働の学修機会を最大限に活用し、実習前・実習中・実習後までの一貫した学修支援プログラムを開発・実施することで、大学での学びと社会体験との接続を図り、学生一人ひとりの主体的な学修を促進します。



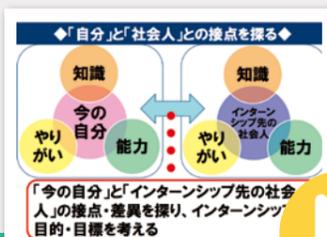
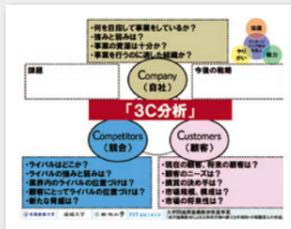
インターンシップは新たな流れへ

平成26年4月、文部科学省・厚生労働省・経済産業省は、平成9年に三省合意で発表された「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を改訂しました。この改訂にあたっては、インターンシップが「大学等の教育の一環として位置付けられ得るものであることから、大学等が積極的に関与することが必要である」と、また「大学等の教育を推進する観点からも、能動的な学修を促す学修プログラムとして提供されるインターンシップの意義が重要である」とが示されています。こうした時代の要請に応えるためにも、本取組が推進している、**大学が主導する「産学協働教育の学修支援ツール開発」**が必要とされています。 ※平成9年、文部省・労働省・通商産業省の三省が作成

Stage.1~3のプログラム・スライド・ワークシートをトータルで開発

Stage.1 ●実習前

これまでの大学生活で学んだ知識・身につけた考え方等を振り返り、学部等の異なる学生とグループで共有しながら、今(実習に参加する前)の自分の状態を明らかにします。また、インターンシップ等で関わる企業について「自社・競合・顧客」を自分の視点で分析(3C分析)し、自分と社会人との接点・差異を探りながら、実習に参加するにあたっての自分の目的・目標を具体的に設定します。



- Point**
- 大学での学び・経験の整理
  - グループワークで深掘り
  - 実習での目標設定

Stage.2 ●実習中

実習

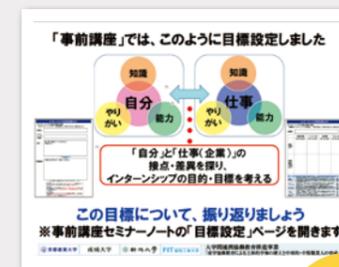
実習ノートに毎日の活動内容や目標の達成度、次回の目標などを記入。実習中も学びや気づきを常に言語化します。



- Point**
- 振り返りの意義の理解と習慣化
  - 自身の成長と課題を認識

Stage.3 ●実習後

振り返りシートを使用し、実習前に立てた目標に対して出来たこと・出来なかったこと、日々の活動から得た学びを振り返り、プログラムを受講したメンバーとも共有しながら学びを深めます。そこで気付いた課題に対して、今後どのような大学生活を過ごしていくのか具体的に目標を立て、プレゼンテーションを行います。



- Point**
- 経験の意味づけ
  - 大学生活での目標設定
  - 発表とフィードバック

● 実習後の学生の感想

実習を受けた学生たちからは、実際に以下のような感想が寄せられました。インターンシップが単なる経験で終わることなく、一貫した教育プログラムとして機能し、今後の課題・目標の設定や、日常の主体的な学びにつながっているのが分かります。

- 「学業内外でこれからやるべきことや、今後の課題を見つけた」
- 「実習を通して、インターンシップ後の心構えもすっかり学んだ」
- 「実習や自分自身をじっくり振り返り、それを言語化する重要性を認識した」
- 「企業研究や自己分析に役立った」
- 「いろいろな経験をした人と情報共有でき、今後の取り組みの参考になった」
- 「グループワークで他業界の職場について聞き、さらに視点が広がった」

大学教育

日常の主体的学修へ